

ご自由にお持ち帰りください



公益財団法人 宮城厚生協会

坂総合病院

NEWSaka

2017.3
No.17

発行責任者：坂総合病院院長 内藤 孝



東日本大震災から6年目のおだやかな
菖蒲田浜海岸（七ヶ浜）

- 1 写真「東日本大震災から6年 おだやかな菖蒲田浜海岸（七ヶ浜）」
- 2 在宅医療・介護研修会（1/20）
- 3 看護部地域開放型研修講座（2/4）
- 4 職場紹介（8階病棟）
食養室管理栄養士から（10回目）
- 5 東北大学病院から表彰
シリーズ9回目リハビリ室のお仕事
- 6 ストーマリハビリ講習会（1/21）
- 7 3月外来診療案内
- 8 インフォメーションほか

病院理念

わたしたちは、患者さまの権利を尊重し、
共感・協同・平等・安全の
医療をめざします。



終末期がん患者の在宅医療・介護に係る研修

地域での多団体・多職種連携が大切

1月20日（金）の夜、坂総合病院教育ステーションにおいて、院内外から約50名が参加し、標記研修が開催されました。3回シリーズの第1回目です。

はじめに坂総合病院の富山陽介副院長



があいさつしました。在宅医療の一翼を担うべく坂総合病院がこの間本格的に取り組んできたことを報告し、『在宅医療のフィールド、横のつながりが広がった。この地域でみなさんと手を携えながらがんばっていき

たい。』と述べました。2つの講演があり、座長は当院在宅医療科科長の佐藤美希医師が務めました。



■講演①テーマ：「終末期がん患者の訪問診療について」

講師：坂総合クリニック
在宅室
高橋順子 看護師



①坂総合クリニック在宅室の紹介、②がん終末期の在宅医療と介護の報告、③事例紹介がされました。

強化型在宅支援診療所として24時間365日対応していること、2016年の訪問診療延べ数は約3200件、臨時訪問件数は約260件だったこと、がん末期患者の在宅医療開始から看取りまでの期間については34名の緩和往診の在宅往診期間が49日（平均年齢73.1歳）など紹介され、『私たちは患者様・ご家族に耳を傾け対応していかなければならない。』と述べました。そして、がん終末期の在宅医療・介護の状況を報告し多団体・多職種の連携の大切さが報告されました。よりよいケア

を追及するためとして、具体的に多職種カンファレンスの開催、訪問看護師と合同の学習会などがあげられました。また、がん患者様の特徴について述べ、疾患による終末期の経過の違いの説明がされました。さらに、介護保険申請にあたってのポイントも報告されました。最後に永眠されるまでの経過と対応など事例紹介がありました。そして、『患者様・ご家族を思う、各専門職の知識と技術による想像力が「生きる」を支える。』と述べました。

■講演②テーマ：「在宅における褥瘡ケアについて～褥瘡ケアの基本とがん終末期のケア」

講師：坂総合病院
中川明子 看護師
（皮膚・排泄ケア認定看護師）



褥瘡の基本知識、褥瘡の予防と治療の基本、がん終末期の褥瘡ケアについて報告されました。はじめに、褥瘡治療の入院と在宅の違い、そして褥瘡とは？として具体的に、褥瘡発生の要因、褥瘡の好発部位（臥床時、座位）、高齢者の皮膚、摩擦・ずれによる褥瘡発生のしくみなど説明されました。

予防対策として、外力（圧迫・摩擦・ずれ）の管理や除去について、体圧分散寝具の使い分けやスキンケアについて、また治療として、創傷ケアの基本など、がん終末期の褥瘡ケアについて述べられました。予防的ケアがもっとも重要であり、保湿用スキンケア用品や外用薬（どのくらい塗ればいいのか）の紹介もありました。そして、『在宅ケアは地域で、多職種による連携が大切です。』と結びました。

参加者からの質問および意見交換もたくさんあり盛り上がりました。

研修会風景



「第34回看護部地域開放型研修講座」開催 テーマ「終末期患者の精神的苦痛とそのケア」

講師：菊地美希子 看護師（緩和ケア認定看護師）

認知症看護認定看護師 阿部 育実

2月4日（土）の午後、早34回目になる認定看護師による地域開放型研修講座が、坂総合病院教育ステーションで開催されました。

今回の講師は、昨年7月に緩和ケア認定看護師の資格を取得した菊地美希子看護師で、「終末期患者の精神的苦痛とそのケア」というテーマで講義しました。

菊地看護師は、現在緩和ケアチームに所属し、医師や多職種と一緒に病棟ラウンドをしながら、終末期にある患者さんのケアをしています。

緩和ケアの定義が変化

最近は医療の現場だけでなく、一般的にも「緩和ケア」という言葉を耳にする機会が多くなりました。

この20年間で緩和ケアの定義が変化していること、また世の中の流れはターミナルケアから緩和ケアへ、さらには、がんでなく非がん疾患や広く老いや虚弱といった高齢者ケアを含めることを意図した、エンドオブライフ・ケアへと変化していることを述べられました。

人としてより良く生命を全うするために、緩和ケアは本当に不可欠なものであるのだと感じました。動画「がんと向き合うある三人の日々」という物語も視聴しました。

精神医学的な病気が約半数の方に

もうひとつ、印象的だった内容は、がん患者さんの約半数の方に適応障害やうつ病などの精神科の診断名がついているということ。がんの体験に対する最も一般的な心理反応が不安であり、不安レベルの高い状態が続くと、仕事や家事が出来ない、眠れないなど、日常生活に支障をきたす状態になるということです。

入院中の患者さんには、時々抑うつやイライラが見られますが、精神医学的な病気をもつ方が、がん患者さんの半数にも上るとは驚きでした。それだけ、がんという病が心理面に与える影響が大きいのだということを改めて知りました。



マッサージ方法のツボを説明

また、不安な患者さんへの対応の一つとしてマッサージ療法の指導演習があり、早速家族でも実践してみましたが、とても好評でした。



まとめとして、以下の内容が述べられました。「がん患者さんの精神症状は異常かそうでないかの見極めが大事」「適応障害やうつ病は早期発見、早期治療」「多職種でのチームアプローチが必要」「看護師はチーム医療の調整役」など。

約2時間の講義は、なぜ緩和ケア認定看護師を目指したのかエピソードも交えながら、菊地看護師の気さくで明るい人柄が伺われる、分かりやすく楽しいものでした。



二人一組でマッサージ療法の演習



8階病棟スタッフのみなさん

8階病棟は循環器内科・心臓血管外科を中心とした46床の病棟で、心筋梗塞や狭心症、不整脈、心不全の患者様や末梢血管疾患の患者様が多く入院しています。

【カテーテル検査・治療】～8階病棟では週3回カテーテル検査・治療を行っています。カテーテル室が2室となり、これまでよりも多くのカテーテル検査・治療を行えるようになり、緊急時の対応も迅速になりました。カテーテル室増で、8階病棟の看護師もカテーテル室業務を担う事になりました。新業務に挑戦する事でスタッフ一人一人が今まで以上に循環器科看護師として

成長しています。

【心臓リハビリテーション】～多職種と連携し心臓リハビリテーションを導入し、早期離床・再発防止に向け取り組んでいます。当院には心臓リハビリ指導士が5名在籍し入院中から運動療法や生活指導を行い、患者様の社会復帰をサポートしています。

【フットケア回診】～閉塞性動脈硬化症、糖尿病、腎不全患者様の救肢を最大の目的として、フットケア回診を立ち上げました。形成外科

科医師・糖尿病代謝科医師・皮膚排泄ケア認定看護師・理学療法士・義肢装具士のチームで、患者様個々に合った治療を行っています。

【チーム医療】～スタッフ全員の思いは『患者様の状態が安定し、安心して自宅に帰ること』です。そのため入院時から退院に向けて医師・看護師・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカーが連携し、自宅退院に向けて必要な介護福祉サービスの調整を行っています。患者様やご家族が安心して自宅退院できるよう、キメ細かな対応をこれからも心掛けていきたいと考えています。



坂総合病院食養室 管理栄養士から

管理栄養士 鈴木 亜紀

第十回

『溜め込んでいませんか？中性脂肪』



中性脂肪は全身に脂肪として溜まり、脂肪肝や内臓脂肪、ドロドロ血液の原因になります。中性脂肪が高いと、悪玉コレステロールが増えて動脈硬化が起こりやすくなるため、狭心症、心筋梗塞、脳卒中などのリスクが高まります。

- ☐ 毎日のようにお酒を飲む
- ☐ 夜食をとる習慣がある
- ☐ 早食いやまとめ食いをする
- ☐ 甘いものや脂っこいものが好き
- ☐ 運動習慣がない

ひとつでも当てはまる項目があったら気をつけましょう！

お酒は飲む量や回数を決める→アルコールは肝臓で脂肪をつくるのを助けます。また、おつまみに脂っこいものや塩分の多いものを食べてしまいがちです。

遅い時間の食事は太りやすい→食後から寝るまでの時間が短くなるとエネルギーが消費されず、脂

肪として体内に蓄積されやすくなります。どうしても夕食が遅くなる場合には、まとめ食いは避け、野菜から食べることで糖質や脂質の吸収を抑制することができます。

ゆっくりよく噛んで食べる→早食いと満腹感を得られる前に完食してしまい、食べ過ぎてしまう傾向があります。食事はゆっくりよく噛んで食べましょう。

甘いものは食べ過ぎない→糖質の中でも、砂糖の主成分であるショ糖や果物に含まれている果糖やブドウ糖は吸収されやすく、中性脂肪の合成を促進します。甘さを感じにくい冷たいものや、果物が入っている野菜ジュースにも注意が必要です。

適度な運動も大切！→食後3～4時間後の血液中には食事から摂取した脂肪が流れています。この間の散歩やウォーキング程度の運動をすることで、血液中の脂肪を消費することができます。

「病病連携も一歩前進」 東北大学病院より感謝状



1月31日の夜、東北大学病院地域連携医療連携協議会総会が開かれ、医療連携に尽力した医療機関への表彰式がありました。

前方医療連携（高次病院への紹介で寄与）として表彰されたのは、県南中核病院（大河原町）・広南病院（仙台市太白区）・坂総合病院と県内の3つの病院と仙

台市内の2つの診療所でした。

当院からは、高津政臣副院長が出席。海野倫明地域医療連携センター長より表彰状が授与され『地域医療支援病院として、地域の医療機関、施設の患者

さんを積極的に受け入れております。平成27年7月に救急病棟を開設し、年間3500台の救急車を受け入れしておりますが至らない点もあります。東北大学病院や東北医科薬科大、近隣医療機関の協力をいただきながら地域医療連携を進めて行きたいと考えております。』と挨拶しました。



回復期リハチームスタッフ（チーム会議にて）

当院の回復期リハビリテーション病棟は46床。365日休みなくリハビリスタッフによるリハビリが患者様に提供されています。脳卒中などが7割、足の骨折などが3割です。

また、医師4名・約30名のリハビリスタッフ体制と恵まれたにぎやかな環境です。患者一人あたり1日2～3時間のリハビリを提供できる量的な整備が済み、継続的な質の向上というテーマに向かって具体的に取り組んでいます。

取り組みの1つ目は、筋力がつく・足が動くようになるといった機能的な改善の底上げはもちろんですが、2つ目は、日常生活動作（トイレでズボンの上げ下げができるなど）の改善や、ご本人の考え

る生活（庭木いじりを続けたいなど）の環境作りなど、患者様がその人らしさを持って地域に戻れるよう多職種協働、地域との連携に力をいれています。

次回は「目標共有カンファレンス」についてお伝えします。



回復期リハを引っ張る
村上栄子OT主任（右）
と丹内清人PT主任（左）

「東北ストーマリハビリテーション講習会」開催

介護職従事者がストーマについて学ぶ

1月21日(土)の午後、坂総合病院教育ステーションにおいて、「東北ストーマリハビリテーション講習会」が主催し、「介護サービス担当者のためのストーマケア講習会」が開催されました。「ストーマ」と呼ばれる人工肛門や膀胱などの装着、交換方法を教える介護職従事者向けの講習会です。

平成23年厚労省通達より、専門的な管理を必要としない場合のストーマ装具交換は、医療行為に該当しないことが明文化され、介護職の方もストーマ装具交換ができることになりました。そこで、研修・訓練の必要性から各県で講習会を開催する運びとなったものです。



ストーマ保有者は県内で少なくとも3700人にのぼり増加傾向という情報もあります。

ストーマ保有者の支援組織である「日本オストミー協会」の役員の皆さまも参加され、『自分でストーマ装具交換ができなくなった時、家族からの介護も受けられない時が不安。その場合は介護職に頼らざるを得ないことがある。今後、介護職がストーマケアを学ぶ講習会を広げてほしい。自分たちも協力したい。』と話されました。

装具交換など熱気あふれる演習

受講者はヘルパーら19名、県内の皮膚・排泄ケア認定看護師6名が講師を務めました。

「ストーマって何?」「これって異常じゃない?」のテーマで講義のあと、実際に装具交換の演習。受



演習その1



演習その2



オストミー協会の役員と実行委員のみなさん

講者から装具の種類やハサミの使い方などの質問が出されたり、熱気あふれる演習となりました。

実行委員のみなさんは、ストーマ災害対策マニュアル宣伝用Tシャツを着て災害対策も紹介、総勢34名の活気あふれる講習会となりました。



宣伝用Tシャツを着用して説明

当院からは、中川明子皮膚・排泄ケア認定看護師とICUの野村主弥看護師が講師・アシスタントを務めました。



受講者からは、『慣れていないストーマ装具交換は不安だった。実技がわかりやすく楽しく勉強できた。』『次もっと時間をかけて学びたい。』との声もあり大変好評な内容でした。

外 来 診 療 案 内

2017年3月

坂総合病院（本院）

各科外来診療日・時間

科	診療	月	火	水	木	金	土	備考
脳神経外科	午前	○			○	○		
	午後					○		
神経内科	午後	○						
消化器科	午前	○	○	○	○	○		
リハビリテーション科	午前		○	○	○	○		
	午後	○						
末梢血管外来	午前	○	○					
甲状腺外来	午後		○診療日隔週					

●医師体制の都合により変更する場合があります。ご了承願います。

総合病院 院長 内藤 孝 電話 022-365-5175 (代)

坂総合クリニック1号館

各科外来診療日・時間

科	診療	月	火	水	木	金	土	備考
外 科	午前	○	○	○	○	○		
腎臓内科	午前			○				
整形外科	午前	○	○	○				
	午後	○		○				
泌尿器科	午前	○	○		○	○	○診療日隔週	
形成外科	午前	○		○			○診療日隔週	
	午後		○			○		
耳鼻咽喉科	午後	受付13:00～16:00		受付13:00～16:00			受付8:30～11:30	
産婦人科	午前	妊婦健診～11:30迄	妊婦健診～11:30迄	妊婦健診	妊婦健診	妊婦健診～11:30迄	○	
		○11:30迄	○11:30迄	○11:30迄	○	○		
	午後	○				妊婦健診		
精神神経科	午前	○	○	○	○	○	○診療日3/18予定	
	午後			○		○		
眼科※1	午前	○11時迄	○	○		○	○診療日隔週	
	午後		○診療日隔週	○	○			
皮膚科※2	午前		○			○	○診療日隔週	
	午後		○14:30～16:00			○14:30～16:00		
血液科	午後		○			○		
禁煙外来	午後			○診療日隔週				
＜各科外来受付時間＞								
●午前 新患8:30～11:30 再来8:30～11:30		●午後 予約制となっています						

※1 眼科の診療は医師体制上の都合により、予約以外の診察をお受け出来ない場合があります。ご了承願います。

※2 皮膚科の診療は医師体制上の都合により、予約外の方は緊急性のある方以外はお受けできません。ご了承願います。

坂総合クリニック2号館

※内科一般外来は午前のみの診療となります（午後は休診となります）。

各科外来診療日・時間

科	診療	月	火	水	木	金	土	備考
内科	午前	○	○	○	○	○	○	
	午後							
糖尿病代謝科	午前	○	○	○	○	○	○診療日隔週	
	午後	○	○		夜間外来			
循環器科	午前	○	○	○	○		○月1回	
	午後		○		夜間外来（高血圧）	ペースメーカー外来 診療日隔週		
呼吸器科	午前	○		○		○	○月1回	
	午後	○	○	○		○		
緩和ケア科	午前		○		○			
漢方科	午前	○	△	△		○	○月2回	
	午後	○	△	△	△夜間外来	○		
高脂血症外来	午前			○				
心臓血管外科	午後			○		○		
小児科	午前	○	○	○	○	○	○	
	午後	予防接種 受付13:30～14:30		育児検診				

●当院の外来は全面予約制ですので、来院前にお電話下さい。漢方は診療変更が多い日を△にしています。

電話番号：予約コールセンター 022-361-8288

電話予約受付時間：平日8:30（小児科のみ8:00から開始）～16:30、土曜日8:30（小児科のみ8:00から開始）～11:30

●医師体制の都合により変更する場合があります。ご了承願います。

坂総合クリニック 所長 高橋 洋 電話 022-361-7011(代)

禁煙外来のご案内

タバコがやめられないのは「意志が弱いから」ではありません。
ニコチンの作用（薬物依存）、心理的依存のためなのです。
 「禁煙外来」では禁煙のための様々な支援をしています。



★日時 隔週水曜日 午後2:00～4:30（予約制） ★場所 坂総合クリニック（1号館2階）

★費用【保険診療対象の方】（※3割負担の場合）

◎初診料：約1,500～1,700円 ◎再診料：約1,100円

■健康保険等の適用について

健康保険等の適用と禁煙治療にかかる費用

現在、健康保険等を使って禁煙治療が受けられるようになりました。禁煙治療（自己負担3割として）は、処方される薬にもよりますが8～12週間で13,000円～20,000円程度です。1日1箱喫煙する方なら、8～12週間のタバコ代より保険診療で禁煙治療を受けた場合の自己負担額のほうが安くなる計算になります。（詳しくは下記 健康管理室にお問い合わせください。）



お申し込み・お問い合わせ

坂総合病院 健康管理室

直通電話 022-367-9053 代表電話 022-365-5175

地域医療連携センターから

○紹介の状況

	紹介数	逆紹介数
2016年10月	675	833
11月	717	832
12月	577	1371
2017年1月	502	806

（坂総合病院、クリニックの合計数です）

○ご紹介の際は、地域医療連携センターまでご連絡下さい。
 ※坂総合病院・坂総合クリニックは予約診療を行なっています。

お気軽に地域医療連携センターまでお問い合わせ下さい。
 尚、緊急性の高い症状の場合や入院加療も含めての診療
 ご依頼の場合は、お電話にてその旨をお知らせ下さい。

《開設時間》

●平日／8時30分～17時 ●土曜日／8時30分～12時30分

TEL 022-361-4700

※時間外休日は、救急処置室に繋がります。

コールセンターから

○診療の予約・変更・お問い合わせは、コールセンターで承ります。

TEL 022-361-8288

平 日（月～金）：8時30分～16時30分

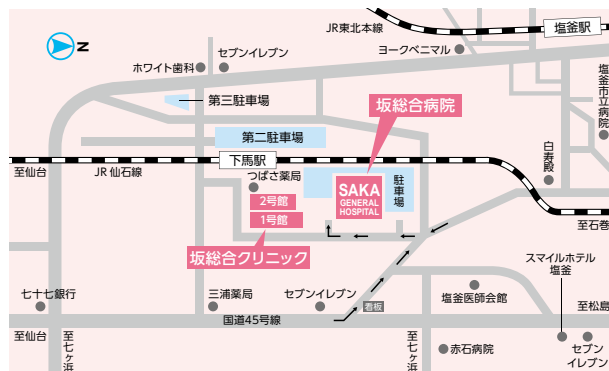
（小児科のみ8時から開始）

土曜日：8時30分～11時30分

（小児科のみ8時から開始）

※紹介状をお持ちの方は必ずその旨をお伝え下さい。

※上記時間以外で救急診療のお問い合わせは、病院
 代表番号にお電話をお願いします。



●電車をご利用の場合

JR仙石線・下馬駅下車（駅前が病院です。）

●お車をご利用の場合

以前に比べて第一駐車場が狭くなりました。ご不便をお掛けしますが、第三駐車場に駐車し、送迎バスをご利用いただけるようご協力お願いいたします。

編集後記

先日、公立高校入試の合格発表のニュースがテレビで放映されていました。努力の末に掴んだ「合格」の喜びを感じた受験生のみなさんには笑顔の花が咲いていました。「サクサク」とはまさにこのことでしょう。合格されたみなさん、本当におめでとうございます。

数年前は私も受験生で、「合格」の喜びと幸せを味わうことができました。同じ喜びと幸せを感じたみなさんの姿を見て、私も幸せをおすそ分けしてもらった感じがします。（S）

公益財団法人 宮城厚生協会

坂総合病院

〒985-8506 宮城県塩釜市錦町16-5

電話 022-365-5175（代表）

FAX 022-365-3620

<http://www.m-kousei.com/saka/>

